

学生の皆さんへ 神経内科・老年内科実習

当科の実習の方針

①患者さんから本気で学ぶ

- ・OSCEの神経学的所見の1歩先をいく所見のとり方をマスターする
- ・本物の問診、医療面接をマスターする
- ・患者さんの不安や、生活していく上に必要なことは何か、想像する力を習得する
- ・ポリクリでできなかった神経内科外来診療を経験する

②プレゼンテーションの仕方を学ぶ

- ・わかりやすく他人に自分の考えを伝え、納得させるスキルを学ぶ
- ・世界標準のPubMedの検索方法(MeSH),カルテの記載方法(POMR)を完全マスターする

③英語論文の検索方法と読み方を学ぶ

- ・どうしたら医学英語を読めるようになるか徹底指導する

目標

- ①医療面接、一般身体的所見、神経学的所見を適切にとることができる
- ②解剖学的診断、鑑別診断を自分で考えることができる
- ③MeSHを用いてエビデンスを検索し、文献をさがすことができる
- ④診療に関する記事を記載し、指導医に報告し、同僚にプレゼンができる
- ⑤英語論文の読み方をえる
- ⑥自らの体調管理、スケジュール管理を実行することができる
- ⑦社会人、医療人としてのマナー(見だしなみ、挨拶、個人情報管理等)を実践することができる

@個人情報の取り扱いに注意する

- ・当科入院患者以外のカルテは開かない。電子カルテアクセスは記録(端末・時間・操作者)に残る
- ・プリントに掲載された個人情報の外部漏洩に注意すること。引越・卒業時にはきちんと処分する

実習の全体像:

- 1) 2週間、総合内科と並行して行う(スケジュール表参照)。
(おおよそ半日ずつ、但し モーニングカンファレンス[8:30-9:00]は神経内科病棟7Fカンファレンスが9:00を超えるときには、自主的に総合診療外来に移動する)
- 2) 学生1人で1人の入院患者さんを担当する。
- 3) 実習前に「5年生神経診察チェックポイント」を目を通す。
- 4) 神経学的診察を紙カルテに記入(実習終了後提出)
毎日患者さんの診察を行い、紙カルテに記入する。紙カルテは各自レポート用紙などに記載する

診察は実習日・実習時間以外でも患者さんの了解を得られれば行ってよい
 医療面接後は電子カルテを参照してよい。所見が主治医と異なるところはよく確認する
 担当患者の各種画像記録(MRI等)や検査所見を電子カルテでしっかり把握すること
 担当症例の検討ができるよう各自がまとめておく

- 4) 担当患者の症例のまとめ・疾患について調べてパワーポイントでまとめる。
 症例発表は最終金曜日、パワーポイントは発表時に教授に提出する。
- 5) 「モリー先生との火曜日」という本を読み、読書感想のレポートを作成する。

- # レポート・図書は、第2週金曜日にまとめて提出する(7N21)
- # 日程表を確認して、カンファレンスやゼミなどの時間に遅れない。
- # 遅刻・欠席の際はグループのメンバーを通じて連絡すること。

5年生神経診察チェックポイント

4年生で学んだOSCE神経診察のまとめです。一通り、読んで復習すると、神経内科実習をスムーズに開始できます。

実習の週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	朝カンファ 病棟処置 外来研修	朝カンファ 病棟診察 外来研修 神経・筋生 検	朝カンファ 病棟処置 外来研修 電気生理検 査	新患資料配 布 新患紹介 病棟回診	朝カンファ 隔週プレゼ ン 病棟処置
午後	病棟診察・検 査 ・考案 / カルテ記載	病棟診察・検 査 ・考案 / カルテ記載	病棟診察・検 査 回診前検討 回診発表準 備	多職種検討 会 医局会・抄読 会 学会予行	病棟診察・検 査 ・考案 / カルテ記載